

東 奥 日 報

2021年(令和3年)8月26日(木曜日) (24)

県内高等教育機関 文化活動どう推進

八戸で懇談会

県内の大学、短大などの学長、PTA関係者らによる県高等教育機関懇談会兼県学校教育関係者合同懇談会が25日、八戸市内で開かれ、「高等教育機関と文化スポーツ活動」をテーマに意見を交わした。

懇談会は県内の高等教育機関が持ち回りで開いており、今回は八戸学院大学が

当番校。開館準備中の市美術館を会場に、オンラインでの参加を含め15団体から約20人が出席した。

同館の高森大輔副館長が「美術館と官学連携」と題して講演し、八戸学院大・同大短期大学部、八戸工業大、八戸工業高等専門学校と同館の連携プロジェクトについて説明。11月の開館以降、経済や福祉、まちづくりなど文化芸術以外の分野にもアートの力を波及させる取り組みを展開しながら、

「アートを通じた学びからまちづくりに向かう人を育む場所にしたい」と述べた。



また県内の大学などで新型コロナウイルスの感染者が増加していることから、県感染症対策コーディネーターの大西基喜医師がオンラインで出席者と情報交換。八戸学院大の水野眞佐夫学長は「感染拡大防止対策と学生のワクチン接種推進の両輪を回していかなければならない」と語った。(千葉真由美)

各高等教育機関が地域で取り組む文化スポーツ活動について情報交換する参加者

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」